

山梨県で学校の先生になろう！（先輩教員の声）



学校名

甲府市北西中学校

教諭 大嶋香菜子

令和5年度採用

出身県 山梨県

◆学校の先生になった理由

私は大学卒業後すぐに英語科の教員になったわけではありません。教員なる前にニュージーランドで生活をしていました。そのときは自分が将来、教員になるとは思ってもいませんでした。しかし、ニュージーランドに滞在中、ご縁もあり、現地の小中学校へ訪問することができました。その際、子どもたちが前のめりになり学びを楽しむ姿をみて、心を動かされました。自分が持つ勉強のイメージを覆すような光景を目の当たりにし、「なぜ、この子たちは自分から積極的に学習に取り組めるのか。」と疑問を抱きました。ニュージーランドは多文化国家で様々なバックグラウンドをもった人々が生活を共にしています。異なる文化に触れる機会が多い環境が子どもたちの学びを豊かにしているのかもしれないと興味をもちました。ニュージーランドでみた教育を日本に持ち帰り、実践してみたいと思い、教員を志しました。

◆学校の先生の「やりがい」や「魅力」

多感の思春期な子どもたちが心を開いてくれた瞬間は、教師としての大きな喜びであり、やりがいに繋がります。中学生は、感情や考え方が揺れ動きやすく、大人に対して壁を作りがちであると感じる経験を多くしてきました。だからこそ、子どもたちが信頼して心の内を話してくれる瞬間は、特別な意味を持ちます。

◆先生になって「楽しかったこと」や「感動したこと」

「大嶋先生」と呼ばれた瞬間、深い感動を覚えました。先生と呼ばれることで、生徒の鑑であるべきだと強く感じ、背筋が伸びる思いがしました。しかし、鑑であることは、完璧な人間でなければならないという意味ではありません。むしろ、人間らしく、強みも弱みも率直に見せることが大切だと思います。

生徒たちが、「大嶋先生はこんなことが得意なんだ。」「大嶋先生も失敗することがあるんだ。」と、私の両面を学校生活の中で見てくれることで、教員と生徒の間に自然とチームワークが生まれます。そして、そのチームワークが成立する瞬間こそが、教員という立場の楽しさを感じるひとときだと思います。



◆学校の先生として心がけていること

自分の授業に関して心がけていることは「本物に触れる」ということです。昨年、一つの取り組みとして、ニュージーランドの中学校とビデオ英会話に挑戦しました。教科書では味わえない発音や学校の様子などを子ども達は直接体験することができました。上手く話せないもどかしさや伝わったときの嬉しさが「英語をもっと頑張りたい」と子どもたちのモチベーションを上げるきっかけになりました。このような「本物に触れる」授業ができるように工夫をこれからもしていきたいです。

◆わたしの学校（職場）の雰囲気

私の職場は、非常に温かく協力的な雰囲気に包まれています。教員間のチームワークが高く、大きな仕事もみんなで力を合わせて取り組む先生が多くいます。コミュニケーションも円滑で、生徒一人ひとりの状況を学年や学校全体で考え、共有しています。教科指導においても、先輩方は惜しみなく資料や指導方法を教えてくださり、私は常に守られている、支えられているという安心感を抱いています。そのため、「思いっきり頑張ってみよう」という意欲が湧いてきます。

◆先生になる前とのイメージの違い

先生になる前は、「教員はブラック」というイメージを持っていました。だからこそ、そのイメージを覆したい、実際に教員という仕事に触れてみたいという強い気持ちがありました。

いざ教員になってみると、そのイメージは全くの誤りだと気づきました。むしろ、教師という仕事は「ゴールド」だと感じています。毎日が予測不能で、生徒の状況に合わせて柔軟に対応していくことは、まるで冒険をしているようです。悩みや困難にぶつかることもありますが、それらを乗り越え、生徒や保護者の笑顔が見えたとき、教師という仕事の素晴らしさ、そして自分の成長を実感します。生徒一人ひとりの人生に関われること、それは教師という仕事ならではの大きな喜びです。

◆退勤後や休日の過ごし方（私のリフレッシュ法）



私にはリフレッシュ法がたくさんあります。ダンス、ヨガ、ウォーキング、オーボエ(楽器)、言語の勉強(最近是中国語)、洋書を読むこと、歌うこと、食べること、友人と会ってお喋りすることなどです。

◆山梨県の学校の先生を目指す方へのメッセージ

教員という仕事は、生徒の成長を間近で見守り、共に歩むことができる、やりがいのある仕事です。生徒の学習をサポートし、健やかな集団生活を築く中で、教員自身も日々成長し続けることができます。

教員という仕事は、十人十色の生徒を相手にするので、日々予想をしないことが起こります。毎日が新しい発見と学びの連続であり、常に自分の対応能力が試される点が魅力の一つではないでしょうか。1日、1週間を振り返り、達成感を味わう。そして、より良い学級や学校づくりを目指して、日々研鑽を積む。このサイクルこそが、教員の仕事の醍醐味と言えると思います。教員は生徒の心に、一生残るような貴重な経験を届けられる機会が多くあります。私たちの指導が、生徒の成長に繋がり、ひいては社会の発展に貢献していくのだと考えると、教員の仕事は、社会全体を支える重要な役割を担っていると言えます。この感動的な日々をぜひみなさんと体感していきたいと思います。一緒に働けることを心から楽しみにしています。

◆大嶋先生の1日

出勤	朝は大好きな身体のストレッチをするために早起きを心がけています。余裕をもって出勤して学校で一日の準備をゆっくり行います。
朝の会	8時35分から始まります。出勤時に朝の会に話す内容を考えます。自分の中でとても大切にしたい時間です。
授業	8時50分～12時45分まで午前の授業が組まれています。空き時間は教材研究や生徒の連絡ノートへのコメント記入をしています。
給食 昼休み	必ず教室にいます。生徒と会話をもったり、生徒の様子を念入りにチェックしたりします。
授業	13時30分～15時20分まで午後の授業があります。
掃除	掃除は厳しく行っています。環境美化に努めます。
帰りの会	生徒が「今日も実りある一日だった」と思ってもらうために、達成感を促す言葉を掛けられるようします。
放課後	部活動（吹奏楽部）
退勤	次の日の準備があれば行すが、ない場合はすぐに帰宅します。